

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



121号

2015 年 9 月 1 日発行号

←植物と人々の博物館ロゴマーク。

8 月だけではなく、6~7 月にも多くの会員の皆様にご参加・ご協力いただきました。小菅村は既に秋の気配、朝晩は長袖を着て生活しております。ということは・・・待望のきのこシーズンの始まりです！！

活動報告

その1 「こすげ冒険学校(第10期)」報告 7.30~8.5(6泊7日)

今年は 14 名の参加者とともに、6 泊 7 日の「こすげ冒険学校」を開催しました。天気に恵まれ、多くの活動を行うことができました。6 泊 7 日間の様子をご報告します！！



日付	主なプログラム
7/30	テント立て、キャンプ場案内、夕食作り(カレー)、虫捕り、野宿
7/31	上流で手づかみ猟、サバイバル、明日のお祭りのための花づくり
8/1	バードウォッチング、下流で泳ぐ・魚を見る、仮装、お祭り、虫捕り
8/2	一度荷物を整理、カジカ捕り、川遊び、ダム造り、うどん作り、コマ回し、小集団行動Aチーム、虫捕り
8/3	カジカ捕り、トウモロコシ収穫、炭焼き窯手伝い、川遊び、小集団行動Bチーム、虫捕り
8/4	カジカ捕り、川遊び、小菅の湯、全体会、花火、星空
8/5	片付け、大掃除

※虫捕り、薪割り、焚き火はいつでも開催中

7/30 奥多摩駅を経てようやく小菅村へ到着。すぐに夕方なので、今日はテントを立てて、一週間の生活の準備をしながら、焚き火、薪割り、虫捕りを早速開始しました！！



7/31 午前中は、加藤源久さん(以下、源さん)を講師に、小菅川の上流へ向かいます。魚(ヤマメ・イワナ)の手づかみ漁をしながら、昼食のソーメンも、現地で薪を集め、お湯を沸かして作ります。もちろん箸も現地調達です。レベルの高い内容で、スタッフもついていくのがやっとでしたが、ここでのレベルアップが、キャンプの後半につながりました。

夜は、明日のお祭りの準備の花づくりで、キャンプ場を離れ、賑やかな？村の中心部へ向かいました。

8/1 早朝の 4:30 から、源さんの案内でバードウォッチング。自主的に起きてきた人だけで行きました。

今日の午前中、今度は小菅川の下流へ向かいます。

8/2 キャンプ中日。一度、荷物を整理して、寝袋とテントを干して、コッヘルを煮沸して、態勢を整えます。



ここでは川に潜ってみて、5種類の魚を見れることを目標としました。参加者とスタッフがマンツーマンでチームを組む、バディ制で安全管理を行いました。

小林さんによるうどん作りも朝から開始、昼食美味かった！！



昼からは、強い雨になったのでまったり。晩のお祭りに向けて「スタジオはるこ」で仮装する人、お祭りの伝統的な「宮巡り」を見に行く人、コマ回しに没頭する・・・などなど。

カジカ捕りも出発。全員捕れたようで何より。そして小集団行動でAチーム総勢 9 名(さらに 2 チームに分かれて)が、必要な装備をチームごとに準備して、キャンプ場を旅立ちました。遊び後道具を優先するチーム、子どもが仕切っているチーム、最小限の装備にしたチームなど、チームごとにいろいろ。



8/3 この日は、村のおじいちゃんの善さんの畑へ行って、トウモロコシの収穫。ついでに炭焼き窯も案内してもらい、出来上がった炭を出して箱詰めする作業のお手伝い。無事に帰って来たチームと入れ替わり、小集団行動Bチーム(総勢 6 名)も出発しました。

8/4 午前中でカジカ捕りや川遊びなどを終えて、昼過ぎから小菅の湯に行きます。そして全員で全体会を行い、1 週間のキャンプを振り返りました。

8/5 みんなでキャンプ場を片付け、修了式を行い、第 10 期冒険学校は無事に終了となりました。

皆さんから感想を送ってもらいまして、ありがとうございます(^_^)

実はまだキャンプ中の写真の編集が終わっていませんので、「次回へつづく」、とさせていただきます。(事務局)

次号へつづく

その2 「やまめキャンプ・いわなキャンプ」報告 8.8~10

こちらは、小さな子どもも参加してまったりのキャンプとなりました。昨年は台風のため中止だったので、開催できて良かった！！

人生初カレーを食べられるようになったり！！まったりの中にも多くの冒険があったことでしょう！！



4 歳、6 歳の少年も沢登り！！



白糸の滝の滝つぼで飛び込み。すごく冷たい。



今年から就職して、遠くから駆けつけてくれたスタッフもいました、ありがとうございます！！(いつも来てくれる皆様も、もちろんありがとうございます！！)

■ 活動案内 ■

自然文化誌研究会冒険探検部40周年記念企画 「第35回環境学習セミナー～環境学習の源流から未来へ」

約40年前、1975年に東京学芸大学内で創設された「自然文化誌研究会（学大探検部）」と、1981年に創設された「東京学芸大学冒険探検部」は、1985年に合併し、「自然文化誌研究会冒険探検部」となりました。その後、五日市や大滝村を経て、2004年に「NPO 法人自然文化誌研究会」として NPO 法人となり、山梨県小菅村に拠点をもち、現在に至ります。

その間に、現役学生を中心とした学大冒険探検部は継続し、子どものための冒険学校～ぬくい少年少女農学校を経て「サークルちえのわ」も誕生しました。

今回のセミナーでは、40年間の軌跡をたどり未来を展望していきます。

【プログラム】

2015年10月10日（土）『第35回環境学習セミナー』～環境学習の源流から未来へ～
会場：植物と人々の博物館（山梨県小菅村中央公民館）

12:30～	受け付け開始	
13:00～	第一部 源流を探る・ふりかえる 探検部草創期(1975年頃) 子どものための冒険学校・五日市時代（1988年頃） 大滝村・エコミュージアム（1990年代） タイ環境学習キャンプ（1990年代） ぬくい少年少女農学校～ちえのわ農学校（2001年頃） 小菅村～現在（2004年頃）	司会進行：中込卓男 中込卓男 柴田一 佐藤雅彦 小川泰彦 中込貴芳 菱井優介 黒澤友彦
16:00～	第二部 どのような未来へ行くか？ 基調講演 亀井雄次氏（小菅村観光協会） 塚原東吾氏（冒険探検部創設者） 木俣美樹男 （自然文化誌研究会学芸大学探検部創設者）	司会進行：中込貴芳
19:00～	朝まで宴会（船木民宿を予定）	

<参加費>

宿泊の方：

一般 5,000 円 学生：1,500 円

セミナーのみの方：

一般：1,000 円 学生：500 円

10月11日（日）小菅村がはじめての人は、本会のサテライトをご案内します。

※そのまま、10/11-12の日程で「INCH ライブ」を開始します（2泊3日でいかがでしょうか？）

長年編集を続け手入る「冒険学校のあゆみ」も、この時に発行します！！

「INCH 祭り」～「INCH ライブ 2015」と「のびと講座きのこキャンプ」で 楽しくやっちゃいましょう！！ 10.11～12(1泊か日帰り)

秋の一大イベント「INCH 祭り」を開催します！ログハウスのあるキャンプ場で、「INCH ライブ」と「のびと講座 きのこキャンプ」を開催し、秋の味覚を堪能しながら楽しい時を過ごしましょう！



本会代表理事中込卓男のバンド「チョークス」、キャンプで村長を務める本会理事の鈴木英雄によるワンマンショー、小菅村民による笛の共演、よいしょバンドなどなど、まだ調整中ですが、多くの皆さまにご参加いただく予定です。



普段会えないみなさま、キャンプでしか会えないみなさま、ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪

きのこに興味のある方は、一緒に山に入ってきのこを採りに行きましょう！！



←野外でバーも開催！

■日程 10月11日(日)～12日(月) 日帰りもOK。
13:00 頃から開演 「まじめなアコースティックコンサート」

※一流のバーテンダーにも来てもらいます！！

■会場：山梨県小菅村いつものキャンプ場

■参加費： ※非会員の方はこの機会にぜひ会員に！

ライブのみの参加 会員 1,000 円（中学生以下無料）

きのこ採りをされる方 会員 3,000 円

泊まりの方 1泊 1,500 円(ログハウスかテントで寝袋)

■交通機関

※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願いします。バスの時間などをご相談ください。

■お申し込み：ライブの当日参加はOKですが、きのこ採りに参加される方は保険に加入しますので、9月28日(月)までにお申し込みください。



ライブのスタッフも常時募集しています～！

第 36 回環境学習セミナー

「小菅村の明日を探る」～持続可能な地域社会の再検討～

過疎高齢化や限界集落など悲観的な用語が世間を飛び交う中で、日本の山村は多くの課題を抱えながらも、素のままの美しい暮らしを、今に継承してきた。源流の郷（日本小菅村発）、エコミュージアム（フランス発）、トランジションタウン（イギリス発）、美しい村連合（フランス発）の 4 つの代表的事例からその活動経験を学び、地方消滅論を再検討し、これを克服する方策を探る。

現在、人口 700 人余の小菅村でも、源流の郷やエコミュージアム日本村など、以前から多く村づくりの取組みがなされている。これらの経験を自ら学び直し、また、他村の経験をともに学ぶためのセミナーにしたい。

日時：2015 年 11 月 14 日（土）～15 日（日）

場所：山梨県小菅村 役場および中央公民館

参加費：資料代など 3,000 円、懇親会参加費 3,000 円、体験参加費 500 円、宿泊（1 泊朝食）6,000 円

主催：NPO 法人自然文化誌研究会、エコミュージアム日本村／ミュージーズ研究会

共催：NPO 法人 ECOPLUS、協力：東京学芸大学環境教育研究センター、後援：小菅村

※この事業は、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催しています。

【プログラム】

11 月 14 日（土） 『明日の小菅村を探る』～持続可能な地域社会の再検討～

昼の部～会場は小菅村役場新庁舎

12:30～ 受け付け開始 小菅村役場新庁舎

13:00～13:20 趣旨案内と挨拶 青柳諭（ミュージーズ研究会代表）

13:20～13:50 源流の郷小菅村 佐藤英敏（小菅村教育長）

13:50～14:20 全国のトランジションタウン活動と藤野の例

小山宮佳江（NPO 法人トランジション・ジャパン共同代表）

14:20～14:30 休憩

14:30～15:00 「日本で最も美しい村」連合が目指す地域社会の未来

杉一浩（NPO 法人「日本で最も美しい村」連合 常務理事）

15:00～15:30 講演 地方消滅論の再検討 山下祐介（首都大学准教授）

15:30～15:40 休憩

15:40～16:30 質疑応答など

16:30～16:45 まとめ 木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授）

夜の部の会場は小菅村中央公民館、植物と人々の博物館の展示案内。

18:30～20:30 懇親会（フリートーク・立食、宿は R & B）

歓迎の挨拶 船木直美（小菅村村長）

11 月 15 日（日） 『小菅村を楽しむ』

トレイルマップがあるので、希望者は各自で散策できます。

9:00～ 集合・説明

9:30～11:30 体験へ出発

① こんにやく体験と掛け軸畑（橋立地区：木下新造）

② 養殖業と天神山（川池地区：小菅一芳）

11:30 そのまま集合せずに解散、昼食は各自で。

申し込み、お問い合わせは、事務局までお気軽にどうぞ！！

「のびと講座 星空観望会」 12.12~13(1泊2日)

毎年恒例、冬の小菅村で天体観測しませんか。天体の撮影にも挑戦しましょう。昨年の「アイソン彗星」のような大きな天体ショーはありませんが、この時期は、ふたご座流星群の活動時期なので、普段より多くの流れ星も見ることができます。星空の写真撮影の方法についても解説します。小菅村は東京から近いのですが、星を見るのに具合の良い環境です。

日 時:2014 年 12 月 13(土)~14 日(日)

場 所:小菅村の空が広く、真っ暗な場所

宿 泊:キャンプ場にてログハウスか星を見ながら寝袋

対 象:小学生 3 年~一般 15 名 ※小学生のみは要相談

費 用:会員 5,000 円 非会員 8,000 円

※宿泊費、食費、保険代、教材費を含みます。

講 師:中込貴芳(本会副代表理事)

佐々木正久(茨城県立石岡二高教諭)

内 容:日中に観察のポイントや天体の話、天体写真講座を行います。夕刻~深夜まで流星を楽しみましょう。夜食は暖かい鍋でも囲みます。翌日は遅めの朝食、小菅の湯で冷えた体を温めて帰ります。

※ バルブか数十秒までの露出ができるデジタルカメラまたはフィルムカメラ(フィルムカメラの場合 ASA400 以上のフィルム)、三脚をお持ちの方は、ご持参ください。

昨年、日の出まで星空を観察し続けた人が多数。少数はさっさと就寝という感じでした。

「冒険学校 まふゆのキャンプ」 12.26~28(2泊3日)

毎年恒例の冒険学校「まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、お正月の準備を見に行ったり、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。

焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・アウトドア料理・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待ってます。

日 程:12月26日(土)~28日(月)

場 所:小菅村のいつものキャンプ場

宿 泊:テントまたは野宿またはログハウス

集 合:12月26日 JR青梅線奥多摩駅午前

解 散:12月28日 JR青梅線奥多摩駅午後

対 象:小学校3年生~中学校3年生

定 員:25名先着順です。

参加費:会員¥21,000 非会員¥23,000

(奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などが含まれます)

申込み:ハガキ・もしくはE-mailに住所・氏名・年齢(学年)・性別・電話番号を記入の上、12月11日(金)までに事務局まで参加をお伝えください。



寒空の朝、バードウォッチング!



食べることは楽しみだ!! 料理もいっぱいしますよ。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その4

『冒険探検粉塵記

第4話 学大探検部を創る』

駄作者：文福洞先斗

ほんとの順番では、大学探検部を創りたくなかった前史を先に書きたいのだが、創立 40 周年記念の第 35 回環境学習セミナー案内に合わせるために、学大探検部の創立者の真情吐露を優先することにした。長嶋茂雄はかく語った、「巨人軍は永遠なり」。同じく、学大探検部伝説のコニちゃん（小西司）も語った、「学大探検部は永遠だ」。しかし、最近では学大探検部栄光の歴史を知らず、歴史的経験から学べない若者ばかりになってしまっていて、「永遠」が危うい。このことを憂えたポンちゃんは生前遺言を勝手に書いておく。人生は相応に歳を重ねてしまえば、あまりに短く、もう限りがあるので、「永遠」という想いには深い意味を感じてしまうのだ。

ポンちゃんは、1974 年に学大に助手として就職した。学生結婚は認めないと義父に言われたので、博士課程進学はやめて、不純な理由から就職し、同時に結婚した。しかし、世間は甘くはなく、指導教官たちからは坂道を上るための重荷を与えられていた。「日本の農業教育を再建せよ」とか「骨を埋めるつもりでやれ」とか、である。根が気弱なポンちゃんは、本気にして、真面目に人の倍以上、世のため、人のため、学大のために働いたが、このことは別に明かすことにする。

とにもかくにも、学生運動や公害反対活動に親しんでいたのも、学生側から教職員側に立場が変わることにはかなり緊張感があった。しかし、この当時までには、悲しくも権力に負け、追い詰められたとはいえ、それでも許しがたい出来事が学生たちによってしでかされ、学生運動は信頼を失い、おおよそ潰え去っていた。学生は恐るるに足らず、まったく元気がなかった。だが、ポンちゃんは新たに大学探検部をつくるという希望を見だし、学生たちを励まして世界に飛び出す志に燃えていたから、しばらくして体験した性善説を揺るがしたほどの「いじめ」もたいがい平気でいられた。

阪本先生と穀菜食による長寿で有名な上野原町桐原に行き（1974 年秋）、ここをフィールドと定めて野外調査の練習をせよと教唆された。そこで、「自然誌研究会」を創って、学生たちを募って調査するとお答えした。それなら、「自然文化誌研究会」とした方がよいと助言された。これが、東京学芸大学探検部の一源流になった（1974 年春）。学内に募集のポスターを張り出し、現代表理事の中込メさんら、男性 1 名、女性 3 名、うち 3 名が理科学、1 名が音楽科生であった。すぐに学生会員も増えて、上野原町から奥多摩町まで雑穀栽培を中心に、文化人類学的な調査や登山の練習をした。

しかし、2 年ほどすると、ポンちゃんは研究発表にあたって、実質のない共同研究（共著）を拒否したので、職場でいじめ（今でいう、忌まわしい用語パワハラ、アカハラ）に合い、助手ゆえに、「サークルの顧問はできない。学生と関わるな。」などと圧力をかけられた。ポンちゃんは、このいじめに屈して、自然文化誌研究会の顧問を、上司、原沢先生に依頼したのである。

その後、いじめに同情した教授たちが、いじめ上司が日本にいない隙に、お情けで講師に昇進させてくれた。これによって、ポンちゃんは学生サークルの顧問になる資格ができ、改めて、自然文化誌研究会の顧問に復帰したのであった。この頃には、ポンちゃんは他大学の学術調査隊員としても、インド亜大陸などに出かけるようになっていた。一方で、国内では関東山地調査から、北海道の北方農耕文化調査に新天地を求めて行く

ことになった。写真 1 は、ポンちゃんの愛車スカイラインで北海道を 3000 km は走った時の様子である。柴田さんや河口さんがいる。

この時期には、現副代表理事の中込ミさんらが塚原さんらと冒険探検部（もう一つの源流）を創っていた。同じ志の若者たちが集まろうと小林さんや宮本さんらが合同の話し合いを続けて、東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部、略称学大探検部になった。こうして学大探検部は黄金時代を迎えたのである。創部 15 周年記念シンポジウム「風と人と」を行い、x x 大学から探検部の参加を得た。さらには、JT クロスカルチャー大賞による中央アジア学術調査の報告会もした（1993）。写真 2 は、北岳に山岳トレーニングに行った時の集合写真である。現副代表の中込ミさんや小川さん、初代事務局長の小川夫人（現、当時リーダー）も写っている。

本会が事務局として下働きし、日本環境教育学会を創設した。冒険学校は今も続いている。小菅にはしっかりした拠点が確保できている。学大探検部の卒業生の多くは、塚原さん、小西さんはじめ、海外で働いた人々が多い。ポンちゃんが密かに夢見ていた「海援隊」の再現が学大探検部で実現したのかもしれない。

今、創立 40 周年を迎えるにあたって、再び黄金時代を築くために、NPO 自然文化誌研究会、学大冒険探検部、OB 会、サークルちえのわ、冒険学校は緩やかなつながりになっている。もう一度、志を統合して、海外遠征などもできるような OB/OG も含めた大学探検部、若者を支援する基盤がしっかりした学大探検部になってほしいと思う。



写真 1・2. 北海道調査と北岳登山

『藤農便り』 第 2 号

農業生産法人 藤野倶楽部 宮本 透（自然文化誌研究会 監事）

藤野倶楽部は 2012 年に農業生産法人として設立された新しい会社で、事業は農園レストラン「百笑の台所」・レンタルスペース「無形の家」等、多岐に渡ります。農業は主に佐野川地区の茶畑、名倉地区の会員制体験農園「安心農園」で行っていますが、今回は刺激的で楽しい仕事をいくつかご紹介しましょう。

・藤野里山茶 神奈川県西部の箱根・丹沢山麓で生産される足柄茶は、山間地の短い日照時間と朝霧が渋味成分のタンニンを少なくし、甘味と渋味のバランスがとれた香りのよい茶として人気のある全国ブランドです。

私は学生時代から茶に縁がありました。学大のある小金井や府中・国分寺は狭山茶産地の南端で、農場実習で木俣さんから茶摘みや手もみ茶作りを教わりました。以前勤務した吉田島農林高校は足柄茶の産地で、JA かながわ西湘の協力で園芸科学科 3 年生の授業に茶摘み実習があり、私は長らくこの授業を担当しました。また吉農生だった平田君が学大に就職してからは、ずっと INCH 伝統行事「野草の天ぷらとお茶摘みの会」の講師をしています。昨年 9 月、手もみ茶をしっかりと勉強するため秦野市公民館の「手もみ茶作り体験教室」に参加しました。講師は中央農業高校の卒業生、10 年前彼が生徒の時「静岡の農業大学校に進学してお茶作りを勉強し、将来は家を継いで茶専業農家になる」と夢を語った意見発表を思い出しました。品評会に入賞したと紹介され、高校卒業以来茶栽培を一途に極める姿に刺激を受けました。藤野倶楽部で茶栽培を担当することになり、彼に追いつけるような仕事をしたいと思っています。

佐野川地区では、急斜面でのきつい作業や生産者の高齢化などで耕作放棄される茶畑が増えています。藤野倶楽部はそのような茶畑を借り受け、無農薬の茶生産に取り組んでいます。猪に根元を掘られ、除草が追いつかず地主さんに迷惑をかけたり等苦勞が多いのですが、おいしいお茶作りには励んでおりますので応援してください。

・百笑マルシェ 安心農園は、耕作放棄され遷移で森にかえていた土地を開墾し、再び農地に蘇らせて今年で 4 年目、完全無農薬・有機栽培で、コクのあるおいしい野菜を生産しています。6 月のある日収穫した野菜の販路を考えていた時、お百姓クラブの石山さんや末村さんがまとめた「相模湖・藤野地産地消アンケート」が送られてきました。桑原社長とミーティングで読み合わせたのですが藤野倶楽部の方針と重なる声が多く、特に「地元の野菜が『まつば』で買えたら便利だな」という意見に引かれました。「まつば」とは藤野唯一のスーパーマーケットです。翌日社長は「営業に行ってくる」と出かけ、戻ってくると「まつばに『百笑マルシェ』のコーナーを設けてもらった。25 日から藤野倶楽部の野菜を販売するのでみんなで準備をするように！」というのです。社長の機敏な行動力と大胆な決断力にはいつも驚かされます。

社員総出で百笑マルシェを設置してはや 2 ヶ月、安心農園の新鮮な野菜を地域の皆様に提供しています。「おいしかったよ！」と声を掛けていただくことも多く、消費者と顔の見える関係の大切さを痛感します。まだまだ小さな百笑マルシェですが、四季折々旬の野菜をたくさんの方に味わっていただけるよう努力します。

・WWOOF 1991 年にイギリスで始まった WWOOF は現在世界 50 カ国以上に事務局が設置され、ホストの有機農家は「一日三食、宿泊場所」、ウーファーは「力」を提供して交流を深めるそうです。6 月 28 日、桑原社長を訪ねてきたタイ人の若い女性オームさんはウーファー 1 号として、至福の一週間をもたらしてくれました。

お客様の対応で忙しい日曜日の午後、観光ガイド本を手にした彼女に英語で話しかけられたのですが全く理解できず、とにかく社長のところに案内しました。何事もなく一日の仕事を終えようとした時、社長から「ウーファーが来るので、宿泊先の芸術の家に明朝迎えに行くように」と言われたのです。

翌朝彼女を連れて出社すると、社長は「1 週間宿泊し、農作業を手伝ってくれるから面倒を見るように。これから本社に行くので後はよろしく」というのです。自慢ではありませんが、中学生の時から語学が嫌い、入試で苦勞し、大学でも一般教養の英語やドイツ語の単位が取れなくて留年しました。27 才の時「1 年生と一緒に授業に出るのは苦痛なのですが」と語学の教授に相談に行くと「もう授業に出なくていいから。その代わり評価は C です」と文字通り単位をいただいて卒業したのです。それ以来 30 年間外国語に接することなく生きてきた私が、日本語をしゃべらない外国人と通訳無しで一緒に過ごすなんてまさに青天の霹靂です。

緊張しながら二人で農園に行き、身振り手振りで作業を説明し「百笑マルシェ」に出荷する野菜を収穫しましたが、野菜を袋に詰めて、棚に並べたときにはすっかり打ち解けました。彼女は 26 才で私の娘と同世代、今では年に数回しか会わない娘との生活を思い出すような至福の 1 週間でした。彼女の持っていたタイ語の観光ガイド本は京都と藤野を案内したもので、本作りにかかわった観光協会の職員は彼女の話聞いて感激していました。

彼女が去った後、さっそく WWOOF ジャパンにホスト登録の申請を行いました。藤野倶楽部を訪ねてくれる

新たなウーファーとの出会いが楽しみです。

藤野倶楽部は今年から INCH 賛助会員になりました。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください。



→相模湖で至福のひとつとき
←百笑マルシェにて



『植物と人々の博物館』 vol.17

① 道の駅こすげ で展示「雑穀街道」

アフリカから、遠く極東の日本にまで伝わった、縄文時代からの歴史をもつ雑穀が多く維持されている村々。これこそ後世に伝えるべき文化遺産です。ドイツの諸街道のように「雑穀街道」でつなげましょう。

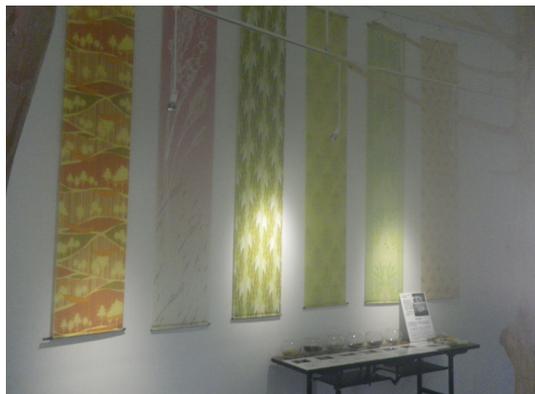
日時：9月1日～10月31日

※入場無料、道の駅にて自由に見学できます。

内容：雑穀をモチーフにしたテキスタイル、種子とその解説、古守豊甫医師と長寿村柵原調査、雑穀街道の現代史「関東山地調査からエコミュージアム日本村まで」など。

目標：

- ローカル・シードバンク、雑穀街道で雑穀のむら連合 *milletrust* をつなぐ。
- ホームガーデンで雑穀・野菜栽培を維持し、郷土食を伝承し、また、新しい料理を商品開発する。
- 相模川・多摩川流域近隣市町村の中山間地との連携、自給農耕、地域経済をつくる。



② 民族植物学ゼミ第1回

伝統知を学び合うことで、トランジションの「素のままの美しい暮らし」(*Sobibo*)を勧める。

参加希望者は木俣にメールください。

kimatami@u-gakugei.ac.jp

1) 民族植物学ゼミ第1回

日時：9月19日(日)午後1時から午後3時。

場所：小金井市の東小金井マロンホール。

内容：読書会、内村鑑三著『地人論』、岩波文庫、660円。

担当者：松浦さん

参加費：300円

2) 扶桑くにゼミ第2回

日時：9月19日(日)午後3時から午後5時。

場所：小金井市の東小金井マロンホール。

内容：読書会、トルストイ著『神の国は汝等の衷にあり』は入手困難。

かわりに、藤沼貴著『トルストイ・クロニクル、生涯と活動』、東洋書店、600円。

担当者：木俣

参加費：300円（複写代、会場費など）

お気軽にご相談ください！！

「小菅村の動き」vol.17はお休みです。

○ 今後の活動予定のお知らせ (2015 年秋～冬)

10/10～11 『第 35 回環境学習セミナー～環境学習の源流から未来へ』 @小菅村

↑ (自然文化誌研究会冒険探検部 40 周年記念企画です) ↑

10/11～12 『INCH まつり』～『INCH ライブ 2015』と『のびと講座きのこキャンプ』 @小菅村 1泊2日

11/14～15 『第 36 回環境学習セミナー～明日の小菅村を探る』 @小菅村

12/12～13 予定 『のびと講座 ふたご座流星群観望会』 @小菅村 1泊2日

12/26～28 『冒険学校 まふゆのキャンプ』 @小菅村 2泊3日

○ 事務局より

● 『8 月末までキャンプが続き、小菅村に住んでいるのに、小菅村の事がよくわからない状態です。最近では、事務仕事・薪割り・草刈りのサイクルで同じ場所しか行き来しないので、同様。 クロ』

● 『今年の夏も終わりました。今から寒い冬に向けて薪や焚き付け用の杉葉の準備しています。1 年で早いな～ はるこ』

○ 事務局の麗しき日々

・まーしーが無職になったもよう。そして新潟へ・・・?

・栃木のちあきちゃんは、お茶汲み強化年間なもよう。

・プロにやられためぐちゃんが、ネパールに旅立ったもよう。

・はるちゃんはいいに、my 丸ノコを購入したもよう。

・みややんはキャンプ後に早速、溪流シューズを買ったぞ!

・柴山くん(しば)は京都へ転勤なもよう。祝・東京脱出!!

・せいじゅが幸せを我慢できず、常にニヤニヤしているもよう。

・この夏プロに血を吸われる瞬間を見せるスタッフ2人誕生(マン)

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか?

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者のびと研修会』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額 (1~12 月) です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 家族会員：6,000 円

賛助会員(個人・団体)：10,000 円

特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

小菅村特別会員：1口 1,000 円から

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 121 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2015 年 9 月 1 日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 0428-87-0165

携 帯: 090-3334-5328 (黒澤)

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

ブログ: <http://npoinch.naturum.ne.jp/>